

ウイメンズ ブックス

第78号

2001年

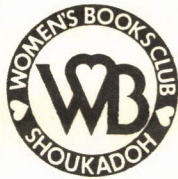
Women's Books

2月25日発行

女性の本の情報誌・ウイメンズブック友の会会報

ウイメンズブックストア

発行所 有限会社 松香堂書店
本社 〒604-0024 京都市中京区下妙覚寺町185-804
土・日・祝日休み TEL 075-253-1860 FAX 253-1861
天満橋店 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号
ドーンセンター内



水曜定休・祝日代休あり
TEL・FAX 06-6910-6115 TEL 06-6910-8627
郵便振替口座 00900-5-309395

このリストの書籍をご希望の方は、同封の振替用紙の通信欄でお申し込み下さい。書籍代は送料共でお振り込みくださいますようお願い致します。ご注文の本の定価の合計額に、下の表の送料を合わせてお送り下さい。なお、お電話でのご注文も受け付けています。

2,000円まで	400円
2,001円～4,000円まで	500円
4,001円～10,000円まで	600円
10,001円以上	700円

電話・Fax・お手紙等でのご注文は、天満橋店にお申しつけ下さい。本誌からの無断転載・コピーはお断りいたします。

Homepage: <http://www.nacos.com/shokado/>

E-mail(ご注文専用)
shokado@d1.dion.ne.jp

最新刊情報

フェミニズム・女性学…P1 仕事…P3 法律…P3 家族・家庭…P3
子育て…P4 ころ・癒し…P5 からだ…P6
セクシュアリティ…P6 セクハラ・暴力…P6
文学・エッセイ・芸術…P8 女性史…P8 自伝・評伝…P9
高齢・福祉…P9 資料…P10 雑誌…P10 ミニコミ情報…P11



(ここに表示してある価格は、ご注文の際の便宜上消費税5%を含んでいます)

『フェミニズム・女性学』

『上野千鶴子が文学を社会学する』
上野千鶴子
朝日新聞社 2000年12月 1680円
今までに何度となく論じられてきたテキストを女性学的社会的視点で捉え直した著者ならではの文学論。自分の文体まで論評しておく周到さが著者らしい。

『「家族」と「個人」の相克 一平等再考』

樋口辰子 東北大学出版会 2000年11月 3150円
男女平等とは何か。家事労働とは何か。家族とは何か等を論じているが、著者の持論が解りにくい。

『近代家族の曲がり角』

落合恵美子 角川書店 2000年12月 2800円
著者がここ10年に発表した近代家族に関する論考の集積。その定義論から、戦後の女性雑誌やホームドラマ、調査などをとらえ、欧米の近代核家族観と日本の家族像の二重構造を明らかにする。

『グローバル/ジェンダー・ポリティクス』

土佐弘之 世界思想社 2000年7月 2310円
国際関係論との関連で論じられてきたフェミニズムの論考を検証し、「戦略的本質主義としてのヒューマニズム」の推進を提唱。片仮名单語が多出して読みにくいのが難点。

『健康とジェンダー』

原ひろ子 根村直美 明石書店 2000年11月 2940円
産婦人科・児童福祉・性科学などの専門家がジェンダーから見る健康・医療について自説を寄せる。特にリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて、世界の動向や母子健康法など詳細に言及。

『埼玉県よしかわ発

男女共同参画物語』

よしかわ女/男たちの
あゆみを記録する会編
生活思想社 2001年2月 2415円
小規模自治体の男女共同参画への道程を、市民と行政職員の手記と資料で生き生きと語られる。市民と行



政のパートナーシップを作り上げる過程、行動計画作りなど新しい自治体と市民参画のまちづくりのいい参考になる。

『ジェンダーの発達心理学』

伊藤裕子編著 ミネルヴァ書房 2000年11月 2940円
キャリア発達・教育・結婚など日常生活にみられる男女差の背景・しくみをデータで立証。こうした研究成果をみるにつけ、ジェンダーがより一般に普及する認識となるための啓蒙活動が必要だとつくづく感じる。

『視覚文化におけるジェンダーと人種』

—他者の眼から問う—
リサ・ブルーム編

齊藤綾子 とちぎあきら翻訳監修
彩樹社発行 星雲社発売 2625円

With Other Eyesって、いい題だと思う。見る行為はここまで、すべて男のものだった。「女の身体は男の前にさらけ出し横たわる」。難解だけど訳者の心意気がひしひしと伝わる力作だ。

『シネマ女性学』

杉本侑壬子 論創社 2000年11月 2100円

この15年間に公開された話題の映画を通して女性の生き方や老いについて語る。映画を通したフェミニズム論。映画評としてはややもの足りないが。

『少子化時代のジェンダーと母親意識』

目黒依子 矢澤澄子 新曜社 2000年10月 3990円

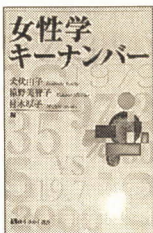
「女性のライフスタイルに関する意識調査」をもとに、現代女性のジェンダー意識、母親意識、家庭観の変容、就業と子育てを分析する。今、静かに大きな流れで家族革命が進んでいる。

『女子学生の就職意識』

神田道子 女子教育問題研究会編

勁草書房 2000年10月 5250円

ジェンダー的環境は女子学生の就職意識形成にどう影響するのか。短大進学者は減少しているが、高学歴女性は希望と実態のずれが大きく、母親が育児に専念すべきという意識も依然強い。興味深い研究結果だ。



『女性学キーンンバー』

大伏由子 棕野美智子 村木厚子編
ゆうひかく選書

2000年12月 2100円

データが語る女性状況、例えば男女の未婚率、女性雇用者の数、賃金格差等々の他、法制度上の数字、数字

のウソ、ホント等。知っているようで知らない数字が表す現代女性の実情。

『性の差異』

ジュヌヴィエーヴ・フレス著 小野ゆり子訳

現代企画室 2000年11月 2415円

ギリシャ時代、哲学者とは男性であった。女が自分で自分を説明すること、主体であると同時に他者であることを獲得したのは、そんなに古いことではない。フランス哲学の明晰さを、女の立場から検証する。

『たたかう女性学へ』

山川菊栄記念会編

インパクト出版会 2000年11月 2940円

山川菊栄生誕110周年を記念して出版された山川菊栄賞受賞者の記念スピーチ、記念シンポジウム記録などを収録。山川菊栄記念会の活動を通して日本の女性学史を俯瞰することが出来る。〔16頁参照〕

『タニヤの社会学』

日下陽子 めこん 2000年9月 1890円

300軒ものカラオケクラブがあるというバンコクのタニヤという通り。ホステスの連れ出し可能な店の方が多数派という日本男性向け娯楽産業の中心だ。接待から買春までバンコク駐在員、出張者たちの実態を徹底調査した。日本男性たちはいつまで恥知らずを続けるのだろうか。

『多様性トレーニングガイド』

森田ゆり 解放出版社 2000年10月 3780円

人権擁護、人権啓発のために、多様性実現の重要性を説き、参加型学習の理論と実践の方法を丁寧にガイドする。

『モダンガール論』

—女の子には出世の道が二つある—

齊藤美奈子 マガジンハウス

2000年12月 1680円

この100年の女性を「出世の夢」という「欲望史観」で捉えたユニークな女性論。性別役割分業社会を前提にしてきた「夢」は見続けられそうもないが。



『メディア・リテラシー〔入門編〕—Study Guide』

鈴木みどり リベルタ出版 2000年8月 1995円

自分が視聴したドラマやCMから想起するイメージをワークシート式に書き込めるメディア・レタラシーの具体的な実践ガイド。メディアを考察するグループ活

動にぜひ。

『女神のこころ』

ハリー・オースティン・イーグルハート著
矢鋪紀子訳 現代思潮新社 2000年12月 4935円
自然界から切り離されたいのちを現在に再生させるために、いにしへの女神像を見つめ、自然としての女性の力強さを再発見する。女性をテーマにした芸術と神話を21世紀に甦らせる。

『優生思想の歴史 - 生殖への権利』

スティープン・トロンプレイ著 藤田真利子訳
明石書店 2000年11月 4830円
優生思想というとナチスを思い起こすが、アメリカでもイギリスでもごく最近まで同意のないまま断種手術が行われていたという。優生思想の歴史を詳細に調べ、人権侵害の断種の事実を明らかにした研究書。

〔仕事〕

『女性の職業のすべて 2001年最新版』

女性の職業研究会編 啓明書房 2000年9月 1470円
あまたある職業を網羅し、興味・関心のある仕事へと導くガイダンス。

『女性の就労行動と仕事に関する価値観』

森永康子 風間書房 2001年1月 4830円
調査結果と分析。

『成功する農村女性起業』

岩崎由美子 宮城道子編
家の光協会 2001年1月 1470円
今農村の女性たちが元気だ。地域の中で女性のネットワークを生かしながら起業する女性たちの事例と経営法や組織の作り方なども考える。

『男女共同参画と女性労働』

シリーズ〈女・あすに生きる〉⑯
赤岡功 筒井清子 長坂寛ほか
ミネルヴァ書房 2000年11月 2730円
法律の改正や新法の成立をふまえ、最新の動向と、女性労働のあり方を検証。女性労働の入門編。

『農村女性による起業と法人化』

岡部守編著 筑波書房 2000年10月 2625円
最近、農産加工・販売や直販で農村女性たちが活発に働いている。そうした起業や法人について現状と実態、その支援策など総括的に記述した。新「食料・農業・農村基本法」では女性の参画の促進もうたわれている。

『働く女性、そのときあなたはどのようにする』

中崎峰子 悠飛社 2000年12月 1575円
働き続ける達人たちは、様々な困難をどう乗り越えてきたのか。転勤、結婚、育児、リストラ、そして起業等々具体的なアドバイス。

『間違いだらけの面接対策 2002年版』

福沢恵子 日経事業出版社 2000年12月 1365円

『面接まで勝ち抜くためのエントリーシート』

〔新版〕2002年版
福沢恵子 日経事業出版社 2000年11月 1365円

〔法律〕

『イラストで学ぼう男女共同参画社会基本法』

- 男女平等への指針
山下泰子 矢澤澄子 岩崎節子 小沼綾子
ぎょうせい 2001年1月 310円
イラストを使って基本法をわかりやすく解説。1ページに1条ずつで一目で理解できるように構成。男女共同参画社会とは何かを知るテキスト。

『共生の法律学』

大谷恭子 ゆうひかく選書 2000年12月 1890円
著者は反差別の闘いに一貫して立つ。日本の法律が弱者の権利を保護しているのか。障害者やマイノリティの人々の権利を通して社会と法律を問う。

『熟年のための法律入門』

- 相続・遺言から成年後見制度まで
渥美雅子 岩波書店 2000年12月 1575円
長寿社会だからこそ知っておきたい法律知識。具体例を引いて解りやすく解説している。

〔家庭・家族〕

『家族と結婚の歴史 新装版』

関口裕子 服藤早苗ほか
森話社 2000年11月 1890円
日本人の性・愛・結婚と家族はどんな変遷をたどってきたのか。古代・中世から今日まで簡潔に説いた日本家族史入門書。絵巻などの図が入っていて理解を助けてくれる。

『結婚しません』

遥洋子 講談社 2000年9月 1470円
フェミニズムに出会い、自分を取りまく混沌に対して自分なりの視界を見出せたという著者。恋愛、結婚、

家事、仕事、普通のシアワセをとことん考え、見抜いて、男社会につきつた果たし状。

『国際結婚の社会学』

竹下修子 学文社 2000年9月 2625円
鎖国時代の日本人女性と外国人男性の関係、いわゆる「らしゃめん」や、内鮮結婚など、国際結婚の歴史を社会的風潮から考察。

『シングルシンフォニー』

スージー・Y・マルタ著
子ども家庭リソースセンター訳
小学館スクウェア 2000年9月 1000円
短く抑制のきいた言葉が、死別・離婚の精神的痛手を、哀しみとして受け止め、立ち直ることを助けてくれる。ひとり親とその子どものための心のケア。

『世代・ジェンダー関係

からみた家計』

室住眞麻子

法律文化社 2000年10月 4095円
家計研究の総括的な論文。日本の家計研究は家政学と貧困研究の両方から行われてきたが家計の定義、世帯と家計、女性の就労と家計の問題など詳しく論証する。



『父性の誕生』

鈴木光司 角川書店 2000年12月 600円
家長制的父親でも虚弱パパでもない新しい父親像を探る。

『密着^{ほし}母娘』

門野晴子 門野智子 講談社 2000年10月 1365円
太平洋をはさんだ母と娘の往復書簡。離れてはじめて言える母の想いと娘の本音のズレ。

『離婚 - その後』

岡野あつこ編著 恒友出版 2000年11月 1470円
「離婚してよかった」女62.4% 男35.8%。仕事、お金、子供、恋愛など、300人の証言で離婚した人たちのその後を追跡。

〔子育て〕

『いそがしいお母さんへの29の手紙』

カトリーナ・ケニソン著 亀井よし子訳
講談社 2000年11月 1680円
子育てが楽しくない、毎日が忙しくて大変だというお

母さんに、ちょっと観点をかえてみようと呼びかける。「日常の中の大切な瞬間」「心の平和」とは何かを考えさせられる。

『親子のカウンセリング教室』

織田尚生 第三文明社 2000年11月 840円
不登校、チック症状、乱暴など子どもの心から出されるサインを見逃さず、悩みの解決を。事例をあげての子どもと家族のカウンセリング。

『子育てをしない男には女のスゴサがわからない』

山脇由貴子 ポプラ社 2000年11月 1260円
児童相談所のカウンセラーが語る、子どもたち、親たち。テレビゲームばかりしている子、「忙しい」としか言わない父親、イライラしている母親に。

『子どもを愛しすぎてダメにする親』

ローリー・アシュナー ミッチ・マイヤーソン
大和書房 2000年9月 2310円
子どもたちに与えすぎる親、子どもの問題を代りに解決する親—子どもへの過剰な心配・関心は子どもを破壊する。依存し合う関係を変えるには…。

『子ども虐待』

いもうせつこ 新評論 2000年10月 1890円
親子2人だけの密閉された家庭での育児において、親は無意識に子どもの年齢に近いところまでおりてきて子どもに対応するため、抑止力が効かず危険だという。被虐待児へのケアや虐待の早期発見のポイントを掲載。

『教育期の子育てと親子関係』

神原文子 高田洋子編著
ミネルヴァ書房 2000年9月 3570円
「子どもの勉学理解度と親子関係の満足度」など、親子関係の現状について、具体的に踏み込んだ知見が素晴らしい。育児中に母が働くのがいけないのではなく、子どものためにやりたいことをしない母が育児不安を抱くことの方に問題があるという。

『少年』

西日本新聞社会部「親子」「少年問題」取材班
西日本新聞社 2000年11月 1300円
連続して起きる少年犯罪。そして親が子を殺すなどこの社会の病理現象に迫った。西日本新聞社会部取材班のルポと座談会。

『“育ちあう”子と親の関係』

遠藤盛男 本の森 2000年9月 1890円
家庭教育から学校教育、生涯教育を一連に見据え、教

育の進むべき方向性と考察。けじめの大切さは大人が皆分かっている筈なのだが…。

『ダディストレス』

宮川俊彦 NTT出版 2000年9月 1260円
 パパの苦痛をママへ問題提起する。「いつも帰れば同じ顔」とのたまうが、畳のように取り換えてできないのは妻にしても同じ。「ぼくはそんなにおとうさんのことをしらない」「じゃまな時スイッチ一つで消えるパパ」など、作文に綴られた子ども達の本音も集める。

『男女共同参画、はじめの一步を家庭から』

国立婦人教育会館編集編纂
 大蔵省印刷局 2000年3月 483円
 「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」の研究成果をもとに作られた家庭での平等教育の手引き書。

『もうひとつの学校をもとめて』

伊藤美奈子 本多利子
 ナカニシヤ出版 2000年10月 2415円
 みんなで学び創作するグループ活動と、苦しさを聞いてくれる個人面接が、フリースクールならではの教育活動である。息苦しさで不登校になった子供が、そこで息をふき返すまで。



『ワーキング・マザーの

子育て心得帳』

マザー・ネットワーク編

PHP研究所 2000年10月 1260円
 長期休みの過ごし方、子どもの勉強のしかた、学校がらみのつき合いの乗り切り方など、働くママの悩みに答える。イラスト入りで親

切に説明してくれる。

【こころ・癒し】

『依存症』

信田さよ子 文春新書 2000年6月 693円
 酒、たばこ、買い物、薬、ギャンブル…依存症とは何なのか、どうして依存症になるのか。カウンセラーの目で「依存症の時代」を読みとく。

『失われた物語を求めて』

ーキッチン・テーブルの智恵』
 レイチェル・ナオミ・リーメン著
 藤本和子訳 中央公論新社 2000年11月 1680円
 40年間も慢性の病気と闘った医師が、医療の科学と合

理性への偏見や患者と医師の人間的でない関係に疑問をもち病院をやめ、たがいの物語に耳を傾ける。世界の大ベストセラーという。

『家族再生』

信田さよ子 西山明 小学館 2000年11月 1575円
 共にアダルトチルドレンの著作があるカウンセラーとジャーナリストが、互いの現場から得た発想をもとにACを再考する対談。もうこれ以上縛り奪うだけの親の愛を強制するのはやめようという願いが込める。

『香山リカの生きる力をつける処方箋』

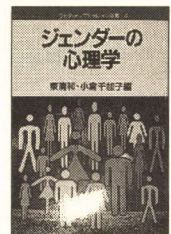
香山リカ 海竜社 2000年11月 1470円
 「本当の私とは」「自分探し」の本は数多いが、どれだけ自分の心にしみ込み、納得できるかが真価だと思う。香山リカの本は時事をおり込みつつ、言い過ぎでも言葉足らずでもなく納得できる。

『心をケアする仕事がしたい』

ー現場の本音を聞いて資格と仕事を選ぶ本』
 齊藤弘子 彩流社 2000年10月 1575円
 学校・職場・家庭で活躍する各種心理系資格をガイド。現役心理職の経歴インタビュー付き。

『ジェンダーの心理学』

東清和 小倉千加子編
 早稲田大学出版部
 2000年10月 2625円
 性差（ジェンダー）についての研究を能力・パーソナリティ・社会的行動・セクシュアリティの各分野からさらにテーマを絞り込み、適確かつ明瞭に叙述。



『毎日のわたしに自信が持てる20の方法』

ウ・テ・エーアハルト著 平野柳子訳
 講談社 2000年11月 1575円
 相手の同意を待たなければ何もできない女性へ。「誰からも好かれようとする女たち」の著者でもあるドイツの心理学者から、自分の人生を生きる喜びをプレゼント。

『娘の誘惑 ーフェミニズムと精神分析』

J・ギャロップ著 渡辺桃子訳
 勁草書房 2000年12月 4200円
 “フェミニスト=娘”と“精神分析家=父”の、“テキストの読み比べ=インターコース”により生まれてくる、柔軟な生き方とは。性関連用語で表現することでみえてくる諸々の関係。

『私を語ることばに出会って』

—命を生きる女性たちの物語—

フェミニストカウンセリング塚編

新水社 2001年1月 1890円

カウンセリングルームを訪れ、自分を語った女性たちの記録。フェミニスト・カウンセリングで開かれた心を語るサバイバル・ストーリー。

〔からだ〕

『iモードの乙女たち』

さいとうますこ

インターメディカル 2000年10月 1050円

心もからだもふれあう関係を築くために、女の子が知っておくたくさんのことを教えてくれるテキスト。勃起不全(ED)や、やせたい願望によるスカスカの骨密度と高い体脂肪率の危険性にもふれる。

『産む快感』

眞鍋じゅんこ 自然食通信社 2000年11月 1680円

自然なお産をしたい人に、いい参考になろう。社会的な足かせや先入観がなければ、出産で本気で気持ちいいものなのかもしれないという著者。「気持ちよかったなあ。また産みたい」産後の感想。

『がんと環境』

—患者として、科学者として、女性として—

サンドラ・スタイングラバー著 松崎早苗訳

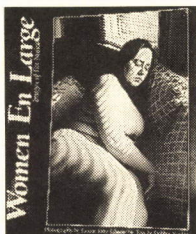
藤原書店 2000年10月 3780円

自ら膀胱がんと乳がんを患う女性科学者によって書かれた。化学物質による環境汚染と発がんの関係の衝撃的な事実。綿密な調査と膨大な専門資料を駆使して環境破壊や汚染の現実を見る。

『これで安心!!「女性と子ども」にやさしい診療室』

浜口ひさ子 現代書林 2000年9月 998円

ちょっとした風邪なら病院へ行かなくてもツボ刺激やマッサージで改善できるし、たのもしい浜口先生にかかれば不妊・つわりから子どもの心の病まで鍼でラクになれる。健康風水術付。



『Women En Large』

—Image of Fat Nude—

Debbie Notkin文

Laurie Toby Edison写真

Books in Focus

1994年 3150円

社会が押しつけてくる女性の美しさのボディ・イメージを打ち

壊そうと太った女性たちのヌードを芸術写真にして話題をよんだ写真集。ボディ・イメージの転換に。(英文)

〔セクシュアリティ〕

『買春と売春と性の教育』

鈴木水南子 村瀬幸治他

星雲社発売 十月舎発行 2001年1月 1575円

買春の是非論ではなく、真面目に「人間と性」を買春・売春から考える本。「“売る女”の側から“買う男”を見る」ほか、ことの本質を語る。各国の法律や買春と性の教育について書かれているのは参考になる。

『同性愛がわかる本』

伊藤悟 明石書店 2000年11月 1575円

「同性愛の基礎知識」改訂新版。依然少数派のおかしい行為だと孤立させられる同性愛を認め、共生していくために。

『トランスジェンダーの時代 —性同一障害の現在—』

虎井まさ衛

星雲社発売 十月舎発行 2000年11月 1365円

性転換をはたして男性になった著者のエッセイ集。まだ無理解な社会の中だが「望みの性」として晴ればれと生きたいという。

『私はトランスジェンダー』

宮崎留美子 ねおらいふ 2000年11月 1575円

二つの性の狭間で生きてきた現役高校教師。トランスジェンダーとしての苦しみや、だからこそ見えてくる問題を率直に語っている。

〔セクハラ・暴力〕

『「慰安婦」戦時性暴力の実態〔I〕』

日本・台湾・朝鮮編』

金富子 宗連玉責任編集

緑風出版 2000年11月 3150円

被害の実態を中心に取り上げられてきた「慰安婦」の問題を加害者の側に焦点をあてて、戦時性暴力の構造と実態に迫っている。日本、台湾、朝鮮と指示、命令系統から一人ひとりの慰安婦まで克明な検証である。

『「慰安婦」戦時性暴力の実態〔II〕』

中国・東南アジア・太平洋編』

西野瑠美子 林博史責任編集

緑風出版 2000年12月 3570円

中国には無数の慰安所があった。山西省、上海、南京、雲南、天津などでの実態の報告とその構造的なもの、そしてフィリピン、インドネシア、ビルマなど東南アジアの日本軍慰安所と性暴力について詳述する。事実を知ることの大切さを実感する。

『桶川女子大生ストーカー殺人事件』

鳥越俊太郎&取材班

メディアファクトリー 2000年10月 1575円

テレビ朝日報道番組が伝える事件の真相。ストーカーが犯罪行為だという認識は警察官らには一切なかった。被疑者死亡の今、死者を辱めるマスコミと警察の責任を問う。

『グローバル化と女性への暴力 ー市場から戦場まで』

松井やより インパクト出版会 2000年12月 2310円
アジア各地の移住労働者の増大、人身売買、環境破壊、武力紛争、ナショナリズムの台頭が女性への暴力を増加させている。グローバル化がもたらす問題が女性に及ぼす影響について具体的に述べられている。その他松井やより最新論集。

『国連軍の犯罪』

ー民衆・女性から見た朝鮮戦争(編集復刻版)』

藤目ゆき編・解説 不二出版 2000年9月 3150円
朝鮮戦争のさなかに戦場を視察・調査した三つの国際NGOの報告書を集成した。朝鮮戦争でアメリカ軍と李承晩軍のおかした残虐行為が明るみに出た。既に絶版となった本を復刻。

『女性に対する暴力 ー国連人権委員会特別報告書』

ラディカ・クマラスワミ著

クマラスワミ報告書研究会訳

明石書店 2000年11月 2625円

国連人権委員会の「女性に対する暴力、その原因と結果に関する特別報告」の主要な部分を収録した。家庭内暴力、共同体における暴力、国家における暴力、日本軍「慰安婦」問題にわけて勧告に至るまで掲載した。

『女子大生セクハラ事件の深層』

ー横山ノックがやったこと』

一ノ宮美成 かもがわ出版 2000年10月 1890円
ご存知、横山ノックのセクハラ事件で、ノックが知事を辞職するまでのドキュメント。弁護士意見陳述、女子大生の陳述書、判決文も収録。

『7人の女の物語 ーバングラデシュの農村から』

ロキア・ラーマン・カピール著 大岩豊訳

連合出版 2000年11月 1890円

イスラム社会の因習の中で女性だちはどんな立場におかれているのか。当然のように行われるレイプ、殴打、村ぐるみの圧迫。NGOの活動の中で出会った女性たちの姿。

『ストーカーからあなたを守る本』

高島克子 渡辺智子 法研 2001年1月 1365円

ストーカー被害をどう捉えるか。法律はどう使えるか。ストーカーへの具体的な対策。ストーカー法各種相談機関の情報などすぐ役に立つ。

『ストーカー完全撃退ハンドブック』

山田秀雄 安富潔 扶桑社 2000年11月 980円

弁護士がQ&Aで答えるストーカー法解釈やケースごとの護身法。迷惑行為は繰返さず一回だけではストーカー行為ではないとのこと。

『セクシャル・ハラスメント』

明治学院大学法学部立法研究会編

信山社 2000年10月 5250円

明治学院大学が上野、角田たちを招いて開いたシンポジウム「セクシャル・ハラスメントを考えるーキャンパスから職場までー」の記録。それに関連の法律、官公庁資料、裁判例、ガイドラインなどを網羅した資料を付した。

『戦時・性暴力をどう裁くか』

ー[増補新装2000年版] 国連マクドゥーガル報告全訳』

松井やより 前田朗解説

パウネット・ジャパン編訳

凱風社 2000年12月 1890円

「慰安婦」問題で日本政府の主張を完全論破した国連マクドゥーガル報告全訳。2000年8月採択文も収録。国連法律条文の解説付き。

『魂の殺人 ー清泉女子大学セクハラ事件』

秦澄美枝 WAVE出版 2001年2月 1785円

必死の思いで大学にセクハラ被害を訴えた女子学生。事件は、セクハラ加害教員を雇い止めさせて解決したかに見えた。しかし学内の教員たちが被害学生と擁護した学生や教員に攻撃をしかけたアカ・ハラ事件。二次セクハラの実態。

『ドメスティック・バイオレンス』

ーサバイバーのためのハンドブック』

原田恵理子 明石書店 2000年11月 1890円

踏み出す一歩が出ないまま孤立した被害女性へ、何をすべきなのかから心の回復まで、自分を取り戻す手助けとなる一冊。

『殴られる女 殴る男』

酒井あゆみ 二見書房 2000年12月 1575円
 女性の3人に1人が男性から暴力を受けているという。
 自らの体験と心の動きを明かす。

〔文学・エッセイ・芸術〕

『石垣りん詩集』

—私の前にある鍋とお釜と燃える火と—
 石垣りん詩 童話屋 2000年10月 2100円
 りんの詩集は、その名のごとく懐として勇気を与えてくれる。

『生きる読書』

群ようこ 角川書店 2000年12月 600円
 毎月買う数十冊の本のリストとともに著者の日常生活が語られる。

『命 —ふと自分のことが嫌になったら』

時実新子 大巧社 2000年10月 1000円
 “過失から生まれた私だったとしても” “夕顔やおなごのおそろしき谷間” 命は心の住みかという著者の句集。

『女たちの言葉』

久保覚選 生活クラブ生協連合会編
 青木書店 2001年1月 1470円
 アリス・ウォーカー、宮本百合子、石垣りんなど、時代を生きた女たちが語らずにはいられなかった86の言葉。筆者の紹介と言葉の解説もつけたアンソロジー。

『風 —窓を開けて小鳥になって』

時実新子 大巧社 2000年10月 1000円
 「一束の手紙を焼いて軽くなる」風をよんだ句集。

『午後の居場所で』

落合恵子
 朝日新聞社 2000年9月 1365円
 若さから解放された「人生の午後」、
 とらわれない「ただのわたし」を生
 きる。素顔の最新エッセイ。



『女帝・永高皇女』

三枝和子 講談社 2000年11月 1890円
 生涯独身だったこの女帝のことは殆ど知られていない。
 政争と不思議なめぐり合わせで、祖母、母、娘と三代
 の女性がつづいて皇位につく。永高皇女の不成就の恋
 と生涯が小説に。

『定年、気がつけば二人旅』

シリーズ女・古い・福祉8』

吉武輝子著 ミネルヴァ書房 2000年9月 2100円
 夫を亡くし、改めて人間の孤独と夫婦関係に思いを馳
 せる。生きることの温度差に違いのある夫婦でも、死
 に直面してはじめて、死にゆく者同士の情けを通わせる
 ことができた。

『能の女たち』

杉本苑子 文芸春秋 2000年11月 714円
 「鉄輪」「藤戸」など、能のヒロインたちの古今変わ
 らぬ内なる思いを汲み取る。

『母の遺したもの』

—沖縄・座間味島「集団自決」の新しい証言—
 宮城晴美 高文研 2000年12月 1890円
 母が託した「集団自決」の事実。のんびりした離島が
 戦場と化し、集団自決へと向かった過程を女性の手記
 が詳述する。生き残った人たちの戦後の苦悩も。

『非情の庭 —無実の学徒戦犯』

樋口茂子 ミネルヴァ書房 2000年12月 2520円
 女性の手で書かれた戦後文学屈指の作（昭和32年刊）
 といわれたものの復刊。戦犯裁判の矛盾をついた学徒
 死刑囚助命嘆願運動を通して戦争のぬぐいがたいキズ
 を痛切に描いた。

『福島瑞穂の新世紀対談』

福島瑞穂 明石書店 2001年1月 1680円
 辛淑王、テリー・伊藤、天野祐吉、鶴見俊輔、道浦母都
 子等々17人の対談。“とんでもない時代”といういま
 をどうきり拓くのか？

『文学と女性』

吉田幸子 横山茂雄共著
 英宝社 2000年11月 3780円
 エリザベス朝から現代まで英米文学を中心に、女性作
 家の作品と小説の中の女性像を新しい視点から論じた
 論文集。

『ブレイク 修正される女 —詩と絵の複合芸術』

今泉容子 彩流社 2001年1月 3990円
 セックスを徹底的に思想と表現に組み入れた芸術家ブ
 レイク。彼の「女」の世界を言葉と視覚両面から綿密
 に読んだ労作。

〔女性史〕

『女たちの近代批判 —家族・性・友愛』

佐藤和夫 青木書店 2001年1月 2310円
1930年代「婦人戦線」に集った日本の女性アナーキストが投げかけた議論は、女だから見えた暮らしの根本から問う近代。(シリーズ現代批判の哲学)

『女と男の時空⑨ 聞き合う女と男 近代 上』

奥田暁子編 藤原書店 2000年12月 2100円
沖縄、満州国、女教祖、セクシュアリティ、写真、文学等にみる近代の「女と男」。(ソフトカバー)

『女と男の時空⑩ 聞き合う女と男 近代 下』

奥田暁子編 藤原書店 2000年12月 2100円
「看護婦の誕生」亀山美知子。「女中の歴史」奥田暁子他。国民国家、教育、戦争、農業にみる近代の「女と男」。(ソフトカバー)

『史料にみる日本女性のあゆみ』

総合女性史研究会編
吉川弘文館 2000年12月 2415円
女性史の入門書に必ず出てくる著明な史料から、これまでに女性史料とはされてこなかったものまで、原始時代から現代までを一冊に納め、わかり解く解説している。女性史を学ぶ人の必携書。

『下着の文化史』

青木英夫 雄山閣出版 2000年11月 3990円
豊富な絵や写真で下着の歴史を総覧、そしてこんなにも種類があるのかと驚く程の呼び名の数々。西洋と日本の下着年表付。

『21世紀への伝言〔62人の肖像〕 WOMEN』

山口はるみ 文耀社 2000年11月 2000円
「この本はきっと宝物になる」とオビに書かれていたけれどその通り。20世紀を生きた女性たち62人の個性をきわ立たせた肖像画。上野千鶴子が序文を書いている。

『日本近代の仏教女子教育』

中西直樹 法蔵館 2000年12月 2730円
仏教女学校はキリスト教への対抗に始まった。明治政府の「国家神道」政策の前に困難に見舞われるが、良妻賢母教育の強固な時代に新芽が吹き始める。

『日本近現代女性史 通史と史料』

阿部恒久 佐藤能丸
芙蓉書房出版 2000年12月 2100円
明治から現在まで女性史をテーマごとに見開き2頁でまとめた。そのため読み易いとはいうものの女性にとって大切な出来ごととも2頁に片づけられている。

〔自伝・評伝〕

『オスカー・ワイルドの妻』

—コンスタンス・メアリー・ワイルドの生涯—
アン・クラーク・アモール著 角田信恵訳
彩流社 2000年12月 2940円
19世紀末、ワイルドは同性愛裁判にかけられた。そのスキャンダルに翻弄された妻コンスタンスの生涯。彼女は婦人服改革運動や政治活動も行った新しい女の側面も持っていた。

『女たちが経験したこと —昭和女性史三部作』

上坂冬子 中央公論社 2000年12月 3780円
昭和史の中から女性に関する三篇を選んで一冊にまとめた。「男装の麗人・川島芳子」「奄美の原爆乙女」「ハル・ライシャワー」の三人が取り上げられている。昭和という時代の象徴的な三人の実像。

『生涯現役』

近藤とし子 ドメス出版 2000年9月 1785円
栄養学の実践活動60有余年、その生涯を食べものこと、栄養のお話をおり混ぜて語る感動の記録。食べ方と生き方は切り離せないことが納得できる。

『ふり返る野辺の道』

関屋綾子 日本基督教団出版局 2000年8月 2100円
現在丸木美術館長をつとめる著者の85年の生涯を振り返った自伝。森有礼の孫にあたる著者だが自立して生きることを早くから実践。豊かな交友と信仰と奉仕活動の日々が淡々と語られる。

『吉永小百合 夢一途』

吉永小百合 日本図書センター 2000年10月 1890円
驕らず高ぶらず、誠実に自分を表現する著者の人柄がそのまま伝わる自伝。映画の舞台裏と女優の心情が興味深い。

〔高齢・福祉〕

『安心して老いられるまちを目指して』

—宅老所「駒どりの家」からの報告—
神生昭夫 自治体研究社 2000年9月 1470円
安心して暮らせる居場所があれば痴呆性高齢者も感情が戻ってくる。住民の手で宅老所ができ、地域のボランティアが支える。通ってくる老人たちに変化が——。

『高齢者NPOが社会を変える』

田中尚輝 足立清史
岩波ブックレット 2000年11月 462円

世界最大の高齢者NPO「AARP」を例にとって、高齢者NPOの可能性を考える。この超高齢社会日本の今後をNPOがどれだけ担えるか。

『高齢者の暮らしの中で』

人権文化を育てる会編
ぎょうせい 2001年1月 2520円
高齢者の人権について様々な角度からとり上げている。人間の尊厳について、高齢者虐待、高齢者施策、自己決定権等々阿部志郎、イーダス・ハンソン、三浦文夫、深尾凱子などが語る。

『福祉“オンブズマン”』

福祉オンブズマン研究会編
中央法規 2000年10月 2520円
社会的弱者に対し、実に冷たい国日本の福祉問題を積極的に追及してきた福祉オンブズマンの活動状況や課題を、諸外国の動きも視野に入れ考察。

〔資料〕

『子育て・教育・子どもの暮らしのデータ集2001』

食品流通情報センター編
食品流通情報センター 2000年12月 15540円
幼児から高校生までの子育て、教育関連調査(教育費、親のストレス、家庭の教育方針等)親と子が回答。各々のデータ。

『復刻近代女性作家精選集 -25巻から48巻まで』

尾形明子監修 ゆまに書房 2001年1月
各6000~17500円(1冊づつ価格が違う)
宇野千代はじめ日本の代表的な女性作家精選作品集。

『マリー・ストーブス産児制限運動と関連文献集

全5巻(英文)
Lesley A. Hall編集及び解説
日本シノップス 2000年12月
セット価 本体87500円(分売不可)
第1巻 母性、第2巻 結婚問題、第3巻 産児制限問題、第4巻 その他の著作、第5巻 日本滞在記。
産児制限運動や性教育運動で知られる著者の文献集。

女性学、女性史、家族社会学に貴重な文献。

『與謝野晶子評論著作集 全21巻』

内山秀夫 香内信子編・解題 龍溪書舎
2001年1月から刊行開始 210000円(分売不可)
明治末からその死に至る36年間の評論、エッセイ750点余を既刊書15冊と共に収集、整理した集成。総約7000頁。

〔雑誌〕

『アソシエ第5号』

御茶の水書房 2001年1月 1680円
特集 グローバリゼーションとジェンダー
巻頭対談 上野千鶴子+足立眞理子

『季刊SEXUALITY No.1』

エイデル研究所
2001年1月 1500円
人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌。特集10代の性はいま、鼎談・論文など。



『就職四季報 女子版2002年版』

東洋経済新報社編
東洋経済新報社 2000年12月 2190円

『月刊女性情報 2000-12』

パド・ウイメンズ・オフィス 2000年12月 3045円
特集 ストーカー規制法子どもへの虐待(4)

『月刊女性情報 2001-1』

パド・ウイメンズ・オフィス 2001年1月 3045円
特集 女たちの20世紀 女性国際戦犯法廷

『国際女性 No.14』

国際女性の地位協会
尚学社発売 2000年12月 3150円
特集1 国連女性2000年会議
特集2 いま女性の権利は



ウイメンズブックスブックレット7

『わたしの性ってなんだろう

—もっとステキに恋をしようよ』深江誠子著
が朝日新聞(2月1日付)に大きくとり上げられ大変評判になっています。学校で、家庭で性について真剣に話し合うきっかけになる本です。お申込みは松香堂まで(税込945円)

ミニコミ情報

(松香堂で扱っているミニコミの最新情報です)

「あごら263号—この判決を許せますか 住友電工判決に怒る！」

女による女のBOC出版部 2000年12月 900円

「あごら264号—ミレニアムの国際女性フォーラム」
2001年1月 1200円

「IBU-IBU VOL.29—地域で子育て、地域で仕事 お母さんのたまり場を」

トランタンネットワーク新聞社 2000年6月 315円

「IBU-IBU VOL.30—マリコのロサンゼルス日記 アメリカ式子どもの叱り方」
2000年8月 525円

「IBU-IBU VOL.31—お母さん業界発 良妻賢母は誰のため？」
2000年11月 525円

「IBU-IBU VOL.32—永遠のヒーロー、ウルトラマンを創った男」
2001年1月 315円

「い・ま創刊号—全国の女性たちの生の声を表現する21世紀型のあなたが創る投稿雑誌」

マック い・ま編集部 2001年1月 480円

「FLCニュースレターNo.37—特集 「女性ライフサイクル研究第10号」を読んで」

女性ライフサイクル研究所 2001年1月 315円

「女の会ニュース2000年ミレニアム号—アールントと死刑 中山千夏」

死刑をなくす女の会 2000年11月 315円

「わたちの21世紀No.24—特集 女性への暴力—日常から武力紛争まで」

アジア女性資料センター 2000年10月 1260円

「女のためのクリニックニュースNo.187—女と健康フェスティバルを終えて」

ウイメンズセンター大阪 2000年11月 420円

「女のためのクリニックニュースNo.188—女と健康フェスティバル・記念講演」
2000年12月 420円

「女のためのクリニックニュースNo.189—全国一斉電話相談に750件の電話が」
2001年1月 420円

「月刊家族178号—大人になること大人であること⑧」
家族社 2000年12月 315円

「月刊家族179号—特集①21世紀の女性像 樋口恵子さんに聞く」
2001年1月 315円

「教会と女性 第13集—産むことはよいことか？」

神奈川教区婦人委員会 2000年10月 525円

「くらしと教育をつなぐWe 12月号—特集 「自己決定」を支える」 フェミックス 2000年12月 680円

「くらしと教育をつなぐWe 1月号—特集 「男女共同参画」を活かす知恵」
2001年1月 680円

「くらしと教育をつなぐWe 2・3月号—特集 境界を生きる」
2001年2月 680円

「シネマジャーナルVol.51—特集 第13会東京国際映画祭」 テス企画 2000年冬号 800円

「シングルズ・ネットVOL.49—10月例会の報告 対等で優しい関係—アドラー心理学について」

確信犯? シングルの会 2000年12月 263円

「戦争と性 第13号—宋神道さんの裁判と女性国際戦犯法廷を傍聴して 谷口和憲」

「戦争と性」編集室 2000年12月 420円

「でるくい5号—粧・装・象—「みてくれ」とジェンダーを考える (前編)」

でるくい編集室 2000年11月 420円

「東京強姦救援センターニュースNo.45—センター著作物に対する著作権侵害に関する報告」

東京・強姦救援センター 2000年12月 105円

「トランタン新聞VOL.52—特集 子どもを預ける」
トランタンネットワーク新聞社
2000年12月 210円

「パワーアップニュースVOL.34—今の子どもたちへ痛みをとまなう体験をしよう」

パワーアッププランニング 2000年11月 315円

「ひとりから第8号—自前の生き方を創り出す 全国集会へのおさそい」

編集室ふたりから 2000年12月 1050円

「Voice 第113号 (2000.11-12合併号)—11/1戸籍統柄裁判第4回口頭弁論報告」

なくそう戸籍と婚外子差別交流会

2000年11月 210円

「Voice 第114号—1/31戸籍統柄裁判第5回口頭弁論傍聴をお願いします」
2001年1月 210円

「マイマイ族 第38号—特集 世紀末女の棚おろし (第2回)」
鈴木美和子 2000年11月 315円

「月刊むすぶNo.359—特集 農の現代事情」
ロシナンテ社 2000年11月 800円

「月刊むすぶNo.360—特集 私たちがまつり (政治・行政)を創り出すのだ」
2000年11月 800円

「月刊むすぶNo.361—特集 発現する子どもたち」
2001年1月 840円 (値上)

「メンズ・ネットワークNo.56—特集 男のフェスティバル in 宝塚「変身」のワークショップに参加して」

メンズ・センター 2000年11月 315円

「メンズ・ネットワークNo.57—特集 書を捨てて」
2001年1月 315円

「モチない問題を考える会通信 第6号—そんなにお台場のクリスマスツリーになりたいか？」

モチ問 2000年12月 263円

「女のからだから183号ークーロン法案への意見書」

SOSHIREN・女のからだから 2000年11月 315円

「女のからだから184号ー柘植あづみさんの報告 ヒト胚が小委員会の模様から」 2000年12月 315円

「女のからだから185号ーヒト胚研究小委員会レポート②」 2001年1月315円

「れ組通信No.164ー特集 レズビアンと歌」

れ組スタジオ・東京 2000年12月 525円

「れ組通信No.165ー特集 21世紀の♀♀」

2001年1月 525円

「れ組通信No.166ー特集 恋人がほしい」

2001年2月 525円

国際理解のための教材ビデオ「フィリピン編」

カラー18分〈マブハイ〉陽気なフィリピンの子どもたち カラー15分〈手と手を結ぼう〉日本とフィリピンの国際協力 子どもたちの植林活動や女性センターの様子をとりあげ、フィリピンと日本の国際交流を紹介。

(財)アジア女性交流・研究フォーラム

2000年 3000円

第1作「中国・スリランカ編」1994年 第2作「韓国・タイ編」1996年 第3作「インドネシア編」1998年

各税込み価格3000円発売中

「母娘かんけいー二年間の語り合いを終えて」

フェミニストカウンセリング塚 グループサイトビー

2000年11月 1260円

「女性グループネットワークのための組織開発ハンドブック(ドーンハンドブック4)ー第1部 組織開発概論 第2部 ケーススタディ」

(財)大阪府男女協働社会づくり財団

2001年1月 600円

「全国組織女性団体名簿2000年版ー全国の女性関係施設付録」

財団法人市川房枝記念会 2000年10月 2940円

「ファイトバックVOL.44ー「沖縄 報道されない事実」講演会報告記」

性暴力を許さない女の会 2001年1月 525円

「わいふ287号ー特集 父親としてのわが夫」

わいふ編集部 2001年1月 620円

「Pimnet KANSAI人脈づくり応援誌No.64ー特集 関西地区若手異業種交流会の紹介」

ピーマン・ネットワーク事務局 2001年2月 420円

「季刊 女も男も86号ー21世紀の展望 セックス・ジェンダー・セクシュアリティ」

労働教育センター 2001年1月 930円

2000年度ウイメンズブックストアBEST20 (松香堂刊は除く) 値段は税含

- 『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』
遥洋子 筑摩書房 1470円
- 『自分でできるカウンセリング』
川喜田好恵 創元社 1575円
- 『21世紀の女性政策と男女共同参画基本法』
大沢真理 ぎょうせい 3150円
- 『子どもとのコミュニケーション・スキル』
田上時子 築地書館 1050円
- 『ドメスティック・バイオレンス』
草柳和之 岩波ブックレット 462円
- 『日本社会ー21世紀へのキーワード』
インターネット哲学アゴラ
上野千鶴子 中村雄一郎 岩波書店 1575円
- 『世界中のひまわり姫へ』
文 小笠原みどり 絵 永田萌
ポプラ社 1470円
- 『親が自分を大切に作るヒント』
B・カールソン他 田上時子訳
築地書館 1050円
- 『「親」をたのしむ5つのスキル』
E・クレアリー 田上時子訳
築地書館 1050円
- 『NPO早わかりQ&A』
辻本清美他 岩波ブックレット 462円
- 『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』
平木典子 金子書房 1575円
- 『知っていますか?』
ドメスティック・バイオレンス一問一答』
日本DV防止・情報センター編著
解放出版社 1050円
- 『アサーション・トレーニング』
平木典子 金子書房 1575円
- 『サバイバーズ・ハンドブック』
性暴力を許さない女の会編著 新水社 1470円
- 『メグさんの性教育読本』
メグ・ヒックリング 三輪好子訳
ビデオ・ドック 1890円
- 『フェミの嫌われ方』
北原みのり 新水社 1470円
- 『知っていますか?』
セクシャル・ハラスメント一問一答』
養父知美 牟田和恵 解放出版社 1050円
- 『女性のデータブック(第3版)』
井上輝子 江原由美子編 有斐閣 3360円
- 『男女摩擦』
鹿島敬 岩波書店 1890円
- 『学校文化とジェンダー』
木村涼子 勁草書房 2835円

—— 海外だより ——

スウェーデン 若い世代と平等動向

レグランド 塚口 淑子

68年に始まる女性解放の動きから早くも30年が経過、当時の運動家たちも孫を持つ世代となった。最近の女性解放前線はどのようなのか、ストックホルム大学の学生自治組織の平等事務局長を訪ねてみた。

当年22才、ジェンダー理論を勉強するアンナ＝クララ・オールソンは、新しい時代の平等問題の担い手である。彼女に会って印象深かったのは、あれほどヨーロッパ社会を揺り動かした68年には、彼女はまだ生まれてさえいず、それについての関心も薄い事であった。当時スウェーデンでは大改革であった、夫婦単位から個人単位への税制度の改革や、中絶の合法化など当然とする世の中に生まれて来た世代である。平等問題といえば、女性問題であり、男性方は『あ、そうですか。頑張ってください』と他人事であった時代を知らない。

平等の範疇も変化した。現在のスウェーデンでは階級（階層）、性別、人種、性的指向などに関係なく人は平等であるべきという合意がある。当国の人口の2割近くが外国から移住の一世ならびにその子供たちで占められているし、同性同志もカップルとして登録出来る世の中である。

とはいえ理想と現実の間にはギャップがあり、こと性差別に関して言えば大学ではそれが顕著である。いったいに古くからある大学や教会などの組織での男女平等は立ち遅れがひどいと定評であるが、それでも男女平等促進を謳う規則などがちゃんとつくられてある。アンナたちはそれを手厳しく『聖牛』と呼ぶ。尊敬される存在ではある



が、だれもそれに積極的に手を出さないからだそう。

学生自治組織は学生たちの意見を学内諸組織に反映することを目的の一部とし、学部レベルにおける理事会から、総長を頭とする最高機関である大学理事会まで代表を送りこんでいる。具体的にそこで検討されるあらゆる事項、たとえば学部の方針や人事問題まで討論に参加し投票権もある。

自治会の平等事務局は平等に関する学生代表をとりしきる、いわば網元のようなものである。女性学生数は対男性比率で50%を超すのに、大学院を経て教授ポストに到達する女性は現在11%に過ぎないという実情を内部から変革するのを目的としている。『聖牛』を動かすのは自分たちだという自負がある。

スウェーデンでは男女平等に関して制度だけが先走りしている感がなきにしもであるが、ルールをひいておけばアンナのような若い世代が順次内容を充たしていくのではないか。考えて見れば学生組織が大学の決定機関に平等問題代表を送り込むなどとは一昔まえは到底考えられなかった事である。

現在女性国会議員数が43%である事を考え合わせても、女性が至るところに半数いたり、男性並みに主要ポストに就くのがごく当然となるための「制度」もスプリングボードとしてそんなに悪くないかもしれない。そうなると思えば男女間の性差を今ほど意識しなくてすむ文字通りのジェンダーフリーの理想社会となるのだけれど。

(ストックホルム大学教員)

次号から「ウイメンズブックス」 が新しくなります!!

ともしびを灯し続けます

NPO法人フィフティ・ネット 代表 森屋裕子

19年前、日本で初めてのフェミニズムの本屋さんが出来た頃は、日本でも女性学がようやく勃興しはじめた時期で、私は、京都府庁近くのウイメンズブックストア松香堂でフェミニズムの本をあさり、たくさん仲間と巡り合い、熱く語り合っ、「育って」いきました。爾来、ウイメンズブックストアは、関西の地にあり、フェミニズムのともしびを全国に送り続けています。そして、私は、そのともしびをよりどころとして仕事や活動を始め、このたび新しいNPOを仲間と共にたちあげました。

微力をも顧みず、「NPO法人フィフティ・ネット」として、「ウイメンズブックス」を引き継がせて頂こうと決心したのは、私自身がウイメンズブックストアで育ち、育てられてきて、その存在が日本のフェミニズムにとって欠かせないと感じているからです。「ウイメンズブックス」をより一層充実させ、ひいてはウイメンズブックストアを力強い女たちの拠点にしていくこと…これが、私と仲間たちに課せられた役割です。みなさま方のご指導、ご支援を得ながら励みます。「女から女たちへ」を合い言葉に、しっかり、着実にやっていきますので、どうかよろしくご支援をお願いいたします。

松香堂書店からのお知らせとお願い

ウイメンズブックストア松香堂書店
代表取締役 中西 豊子

当誌「ウイメンズブックス」は、1982年の創刊以来、会員の皆様からの暖かいご支援をいただき、今日まで続けることが出来ました。今後は「NPO法人フィフティ・ネット」が編集発行に当たります。今までと同様新刊ブックガイドとしての役割をそねることなく誌面を充実させていきますのでご愛読の程をよろしくお願ひ申し上げます。松香堂書店と致しましても、若い世代に「ウイメンズブックス」を引き継いでもらうことが出来てこんなに嬉しいことはありません。「ウイメンズブックス」事務局は、当分の間松香堂書店天満橋店にあります。書籍販売及び書籍出版は今までと変わらず営業しております。どうぞこれまで通りご愛顧をお願い致します。

●Information from SHOKADOH

- 2000年度会費が未納となっている方は恐れ入りますが、3月中旬までにお振込ください。年度末払いの団体会員様も3月中にお振込いただきますようお願い致します。
- 従来「ウイメンズブックス」の年度は、1月より12月としてきましたが、公共の団体会員様が増え不都合が生じてまいりましたので、2001年から4月1日より翌年3月31日をもって年度とさせていただきます。
- お知らせのところでも申し上げましたように、当誌は4月1日から「NPO法人フィフティ・ネット」が編集に当たります。長らくご愛読頂きましたこの欄は今回で終わります。本当に長い間、有難うございました。

「NPO法人フィフティ・ネット ー女性と政治・政策センター」設立と 新しい「ウイメンズブックス」誕生記念パーティのお知らせ

新しい門出を祝って、記念フォーラムとパーティを開きます。

是非ご出席頂きますようご案内申し上げます。

と き：2001年4月15日（日）

ところ：ドーンセンター（大阪市中央区大手前1丁目3-49）パフォーマンススペース

内 容：第一部 14時～16時30分 記念フォーラム

「してはいけないジェンダーフリー？21世紀社会をどう創るのか」

トーク 上野千鶴子（東京大学教員）

辛 淑玉（人材育成コンサルタント）

第二部 17時～19時 設立・発刊記念 いきいきパーティ

参加費：第一部 NPO法人会員・ウイメンズブックス会員 500円 非会員 2000円（定員 150名）

第二部 会員非会員に拘わらず 4000円（定員 80名）

（どちらも満員になり次第締切らせていただきます）

申し込み方法：①ウイメンズブックス会員は、来年度会費を振込んで頂いた方に限り第一部は500円です。第二部は4000円。来年度会費と一緒に振込み下さい。通信欄に必ず第一部記念フォーラム・第二部パーティなどと明記してください。

②フィフティ・ネット入会希望の方も第一部は500円です。フィフティ・ネット購読会費と共に3500円を下記郵便振替口座にお振り込みください。パーティもご出席の方は7500円をお振込み下さい。通信欄に内訳をご明記下さいますようお願いいたします。

4月4日までにお振込み下さい。

NPO法人フィフティ・ネット

郵便振替口座 00910-6-11449 名義 NPOフィフティ

連絡先 〒534-0025 大阪市都島区片町1-4-2 シャトーテル大手前317

Tel/Fax 06-6355-7140（電話は火・水・木の10時から16時）

E-mail fifty@triton.ocn.ne.jp

◎「NPO法人フィフティ・ネット」にご関心ある方は、案内などお送りしますのでお問い合わせください。

NPO法人フィフティ・ネットについて

ジェンダーフリーの視点を意思・方針決定の場に反映させ、新しい社会の仕組みを創り出していくためのアドボカシー（問題提起・提言）を目的とした特定非営利活動法人です。現在は女性を議会へ送り出すための「バックアップスクール in 関西」を開催中。ご関心のある方は、どうぞ下記事務所までアクセスしてください。

メンバー：青山はるみ 大橋涼子 片岡慶子 大門晶子 田坂美代子 松永致和 松本澄子 森屋裕子 吉田ようこ

事務所：大阪市都島区片町1-4-2 シャトーテル大手前317

Tel・Fax: 06-6355-7140 HP: <http://www4.ocn.ne.jp/~fiftynet>

購読会員 3,000円 維持会員 10,000円

お 願 い

2001年度から「ウイメンズブックス」年会費を個人会費3000円、海外会員・団体会員3800円とさせていただきます。紙面を刷新し、より充実した女性の本の情報誌にしていきたいと存じます。ご納入の程お願い申し上げます。

=書 評=

『たたかう女性学へ
—山川菊栄賞の歩み— 1981-2000』

山川菊栄記念会編

インパクト出版会



北の方のどこかの空から氷点下何十度という寒気が少しづつ南下し、日本全体に雪やみぞれが降る寒い日、この本を読みおえた。まえがきにあるように、女性をとりまく状況は山川菊栄の時代に比して今も決して進歩していない、冬の時代は終わっていないのではないかという思いを私は抑えることができなかった。

今は解散したが、「日本婦人問題懇話会関西地区の会」という集まりで、1989年、山川菊栄生誕100年を記念して『山川菊栄と現代』というシンポジウムを持ったことがある。実施にあたり、会員みんなでシンポジウムに備え著作を読み議論し、勉強をした。その中で1981年から「山川菊栄賞」というもののあることも知った。山川菊栄の生涯と、思想、情熱とを縦軸に受賞した人々の記念スピーチの収録という内容は、10年という歳月を経ているにもかかわらず、山川菊栄を知ったあのとときの感動となつかしさを蘇らせてくれた。

「山川菊栄賞」は山川菊栄研究のために与えられるものでなく、広く婦人問題に関する研究のためにという趣旨に沿って設けられ、各年代ごとの受賞論文は多彩にわたっている。1980年代から90年代の日本の女性学の歴史というに相応しい内容である。

最初の受賞は山川菊栄の研究報告に与えられ、「母性保護論争」「婦人部論争」についての報告がなされている。「母性保護論争」は与謝野晶子、平塚らいてうとの論争を受けてなされたものであり、未だに語り伝えられている大きな論争の一つである。山川菊栄の社会主義的立場からの母性保護についての分析は、性別役割分業論批判としても現在に通じるものという研究報告は明快であった。

第3回から第9回にかけては女性の経験を掘り起こし、表現することによって普遍とする研究に対して与えられている。そのなかで「家」の崩壊のきざしは「疎開」から始まっているという受賞研究グループのスピーチがあった。1929年生まれの私の経験ではないが、小学生だった妹たちは「縁故疎開」による人間関係で、かつて情緒不安定になったいきさつがある。国が介入した縁故疎開は、今の家族問題の遠因の一つともなっているのではないか。

1990年代の前半には、女性差別についての意欲ある研究が受賞しており、「女性の人権としてのセクシャル・ハラスメントNO」は今なお問題であることを思えば、この賞の果たしている役割は大きい。受賞者スピーチの他に、シンポジウム・学習会・講座の記録などがあり充実した内容である。『山川菊栄の今日的意義について』—竹中恵美子—は、日本におけるマルクス主義フェミニズムの源流として、階級支配と性支配を複眼的にとらえた先駆者として、山川菊栄の業績を再評価すべきであると述べ、フェミニズムがたんなる知的ファッションにおちいることへの警告と、労働権は女性の基本的な人権であることを明確に示し、「たたかう女性学へ」問題提起をしている。

山田芳子 (株)アトリエF取締役)

投稿をお待ちしています。女性目で見直した鋭い批評や、視点を変えたユニークなものをお寄せください。

|| 原稿募集 ||
「あなたの情報・私の情報」とコラム「わたしの推したいこの一冊」は、知って欲しい本、ご意見・情報交換等に御利用ください。400字以内でお願いします。
尚、ご投稿は会員に限らせていただきます。
宛先は
〒534-0025 大阪市都島区片町1-4-2
シャトーテル大手前317 フィフティ・ネット
「ウイメンズ ブックス」係
Tel・Fax 06-6355-7140
E-mail fifty@triton.ocn.ne.jp

次号の締切は 2001年4月20日。
たくさんのご投稿をお待ちしています。
※次号は2001年5月25日発行の予定です。

編集後記

- 2000年度のベスト20は、やっぱり「ウイメンズブックス」ならではのものが並んでいて嬉しくなります。読者の皆さんの感想などもお聞かせください。
- 前頁でお知らせ致しましたように、このウイメンズブックスの編集は、松香堂書店としてはこれが最後になります。様々な思い出や感慨が有りますが、無事若い世代にバトタッチできた事にホッとしています。ウイメンズブックストア天満橋店は、今までと何ら変わることなく営業しておりますので、どうぞ引き続きご利用くださいますようお願い申し上げます。本当に長い間のご愛読、ご支援を有難うございました。心から感謝しております。
- 次号から編集に当ることになりました「NPO法人フィフティネット」では、皆様のご要望を聞きながら、より読者のニーズに添った新しい「ウイメンズブックス」にしようとして張り切っています。左記の事務所までよろしくお願い致します。(中西)